

豊監報第1-8号

令和元年11月28日

豊岡市監査委員 保田 勇一

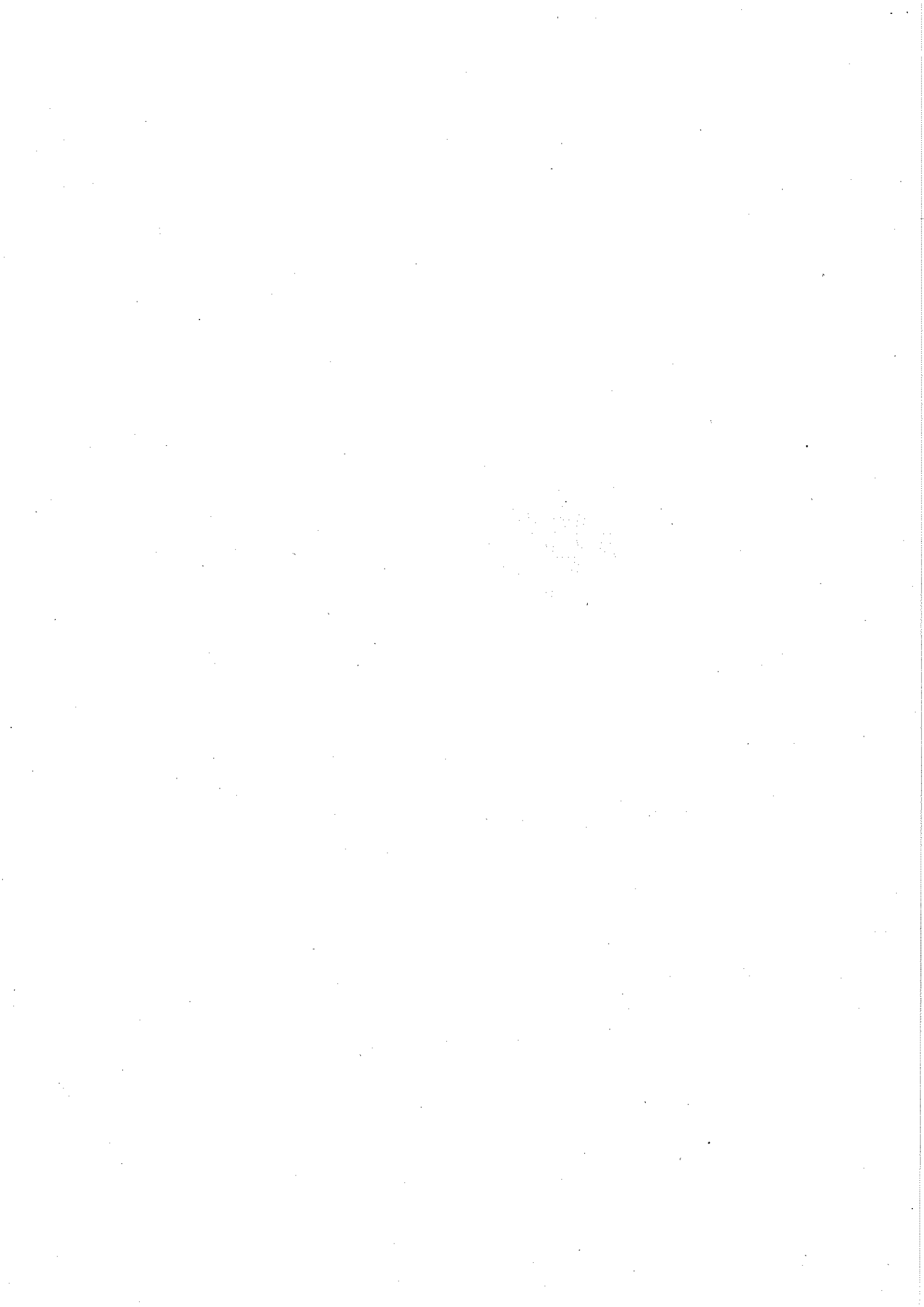
豊岡市監査委員 中嶋 英樹

豊岡市監査委員 椿野 仁司

財政援助団体等に対する監査（出資団体監査）結果報告について

（株式会社北前館）

地方自治法第199条第7項の規定に基づき、財政援助団体等に対する監査（出資団体監査）を実施したので、同条第9項の規定により、その監査の結果に関する報告を別紙のとおり提出します。



# 財政援助団体等監査結果報告書

## (出資団体監査)

### 第1 監査の種類

地方自治法第199条第7項の規定による監査（出資団体監査）

### 第2 監査の対象

#### 1 監査の対象

株式会社北前館

(当該団体の事業に関係する竹野振興局地域振興課の事務を含む。)

#### 2 選定理由

以下の事由により、当年度の監査対象とした。

- (1) 前回の監査は、2013（平成25）年10月に実施されており、一定の期間を経ている。
- (2) 「豊岡市公共施設再編計画」により、機能維持を最優先に大規模改修は控えるものとし、温泉施設の収支状況が好転しない場合は、温泉機能の廃止を検討する方向性が示されているため、その状況等を確認する。
- (3) 指定管理者として、豊岡市立竹野北前館の管理運営を受託しているため、その経理状況等を確認する。
- (4) 2019年1月に「豊岡市（竹野北前館）第三セクター等経営健全化方針」が策定され公表されたため、その状況等を確認する。

### 第3 監査の目的と範囲

重要リスクに対する内部統制の整備状況及び運用状況を監査し、その有効性を評価するとともに、当該事務が関係法令及び規程等に準拠し適正で効率的かつ効果的に行われているかを、関係者によるヒアリングや証ひょう書類等を突合するなどの監査手続を通じて試査する。

特に今回の監査は、株式会社北前館（以下「北前館」という。）における出納事務手続、指定管理やその他関係事務について、適時適切に行われているかという観点から、第25期から第27期までの3年間（2015年10月1日～2018年9月30日）の決算並びに第28期（2018年10月1日～2019年9月30日）における現状を監査の対象範囲として実施した。

また、北前館に関係する竹野振興局地域振興課の事務が、関係法令等にのっとり適切に処理されているか検査した。

### 第4 監査の着眼点

監査の実施にあたり、監査の着眼点を次のとおり設定した。

#### 1 出資団体関係

- (1) 定款及び就業規則等に基づいた事務が執行されているか。
- (2) 設立目的に沿った事業運営が行われているか。

- (3) 決算諸表等は、法令等に準拠して作成されているか。
- (4) 事業成績、財政状況は適正に決算諸表に表示されているか。
- (5) 経営成績及び財政状況は良好か。
- (6) 出納関係帳票等の整備、記帳は適正になされているか。また、証拠書類の整備、保存は適切か。
- (7) 会計経理及び財産管理は適切か。活用されていない財産等はないか。
- (8) 資金運用は適切か。また、経費節減は図られているか。
- (9) 現金や預金通帳、印鑑の管理体制は適切か。
- (10) 指定管理に係る事務が、「豊岡市公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例」や「指定管理者制度に関する運用指針」等に基づき適切に事務処理されているか。
- (11) 地元地域の方々との連携・協力の体制はどうか。

## 2 所管部局関係

- (1) 経営成績及び財政状況を十分把握し、適切な指導監督を行っているか。
- (2) 出資者としての権利行使は適切に行われているか。
- (3) 出資団体への委託業務等が適切に処理されているか。
- (4) 出資団体との連絡・調整等が十分行われているか。

## 第5 監査の主な実施内容

### 1 事前監査（予備調査）の実施

北前館及び竹野振興局地域振興課を対象に、監査委員事務局職員による事前監査（予備調査）を実施した。

事前監査においては、主な着眼点毎に、内部統制の整備状況及び運用状況について、事前監査点検事項を設定する方法により監査を実施した。

- (1) 実施日 2019年10月21日

### 2 監査委員監査（本監査）の実施

- (1) 実施日 2019年10月28日

- (2) 監査委員名 監査委員 保田 勇一、監査委員 中嶋 英樹、監査委員 木谷 敏勝

※ 木谷敏勝監査委員は、2019年11月11日で退職した。

- (3) 基準等 豊岡市監査委員監査基準及び監査等の実務ガイドライン（全国都市監査委員会編集）

## 第6 監査の実施期間

- 1 実施場所 竹野北前館会議室及び現地
- 2 監査の期間 2019年9月4日から11月15日

## 第7 監査の結果

今回の監査は、北前館について、第25期から第27期までの3年間の経営状況等、第28期における現状及び指定管理施設に係る事務について聴取し、関係諸帳簿の検査を実施した結果、北前館は、出資目的に沿った事業を展開している中で経営改善計画にも着実に

取り組まれているとともに、指定管理施設に係る事務もおおむね適正に執行されていると認められた。

なお、今回の監査における要望事項等は、「5 監査の総括及び所見」に述べているとおりであるので、これらの要望事項等に関しては検討を求める。

また、軽易な注意事項等についてはその都度口頭で改善指導したので、記述を省略した。

以下、監査結果は次のとおりである。なお、文中及び各表中の計数は、原則として表示単位未満を四捨五入により端数処理した関係上、合計と内訳の計が一致しない場合がある。

## 1 団体の概要

### (1) 概要

団体の名称	株式会社北前館
設立年月日	平成3年10月7日
資本金	25,000千円
株式数	500株 1株につき50千円
株主数	128名
豊岡市からの出資	255株 12,750千円 (出資割合 51.00%)
代表者名	代表取締役 石田孝一
所在地	豊岡市竹野町竹野50番地の12
職員数又は会員数	21名
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊岡市立竹野北前館の管理運営</li> <li>・レストラン及び喫茶店の経営</li> <li>・特産物及び観光物産の販売</li> <li>・竹野温泉の配湯及び泉源管理</li> <li>・地域活性化活動の支援 など</li> </ul>

注) 平成29年12月1日提出、指定管理者の指定についての議案より

### (2) 組織

代表取締役 太田垣 健作、取締役5名、監査役2名 (令和元年9月13日現在)

<社員>

(単位:人)

	第27期末 (H30.9.30)	第26期末 (H29.9.30)	増減
社員	3	6	△3
パート・アルバイト	3	3	0
合計	6	9	△3

職員体制としては、平成30年9月30日現在で6人(うち正規社員3人、パート社員3人)の職員が配置されている。季節的な繁忙期にはアルバイト社員を短期雇用している。

(3) 指定管理施設の概要

豊岡市の公の施設である竹野北前館の管理を指定管理者として受託している。  
令和元年度現在における受託施設の概要は以下のとおりである。

ア 施設の概要（平成29年12月1日提出、指定管理者の指定についての議案より）

施設の名 称	豊岡市立竹野北前館
所 在 地	豊岡市竹野町竹野50番地の12
施 設 内 容	温泉入浴施設
指定管理期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日
指定管理料	あり
選 定 方 法	非公募
料 金 制 度	利用料金
施設の沿革 及び概要	建物概要 平成4年3月竣工 鉄筋コンクリート造3階建 建物面積 2,028.01㎡ 主な施設 北前船資料展示室、インフォメーションセンター、 竹野ジオエリア拠点施設、浴場、海洋学習室、研修・ 交流ホール、機械棟、（レストラン、特産物販売コーナ ー）

イ 指定管理料等の推移

（単位：千円）

年度	H26	H27	H28	H29	H30
指定管理料	9,335	9,443	9,335	8,955	9,145

（注）平成29・30年度指定管理者事業報告書より

竹野北前館は、竹野浜の自然環境、歴史的所産、地元産業等を活かし、都市との交流を図り、もって市の活性化に寄与するため設置され、その目的を達成するため次に掲げる事業を行っている。

- ア 北前船に関する歴史資料の展示に関すること
- イ ジオパークに関する資料の展示に関すること
- ウ 観光情報及び地域情報の提供に関すること
- エ 都市との交流活動の支援に関すること
- オ 竹野温泉の利活用に関すること
- カ 竹野北前館の施設を利用させること
- キ 前各号に掲げるもののほか、竹野北前館の目的を達成するために必要な事業

豊岡市の施設である竹野北前館の管理を指定管理者として受託し、温泉入浴施設、会議室使用、北前船の展示に関する管理を行っているほか、特産品及び生鮮食料品等の販売並びに駐車場管理業務、温泉配湯業務及び各種団体事務の受託に関する事業活動などを展開している。指定管理者制度による受託にあたって、竹野北前館は利用料金制を採り、浴場・研修室等の利用料金を收受するとともに、指定管理料を豊岡市から収入している。

#### (4) 主な実施事業

北前館は、竹野北前館の経営を主体としつつ、観光と交流の振興を図ることを目的として、平成3年10月7日に旧竹野町のほか町民や町内団体などの出資により設立された株式会社である。

定款に基づき以下の事業を営むことを目的としている。

- ア レストラン、喫茶店の経営に関する事業
- イ 温泉浴場施設の管理運営に関する事業
- ウ 特産品の開発及び加工並びに販売に関する事業
- エ 公共施設の維持管理に関する事業
- オ 駐車場の管理運営に関する事業
- カ 飲食物、日用品等の販売に関する事業
- キ 温泉の配湯に関する事業
- ク 公共的団体の事務局に関する事業
- ケ 山陰海岸ジオパークのガイドに関する事業
- コ 前各号に付帯又は関連する一切の事業

## 2 財務状況の分析

第25期から第27期の3か年の財務状況は、以下のとおりである。

### (1) 損益計算書

(単位：千円)

区 分		第27期	第26期	第25期
		(H29.10.1～H30.9.30)	(H28.10.1～H29.9.30)	(H27.10.1～H28.9.30)
総 収 益	売上高	65,996	90,634	99,520
	営業外収益	1	422	2,764
	計	65,997	91,056	102,284
総 費 用	売上原価	12,130	24,933	25,648
	販売費及び一般管理費	52,069	67,130	71,434
	営業外費用	1,640	1,610	1,025
	計	65,839	93,673	98,107
経常利益		158	△2,616	4,178
特別利益		2	12	8,578
特別損失		3,243	0	8,540
税引前当期純利益		△3,082	△2,604	4,216
法人税等充当額		211	211	211
当期純利益(当期損失△)		△3,293	△2,815	4,005

第27期(平成29年10月1日～平成30年9月30日)の経営成績についてみると、総収益65,997千円(対前期比25,059千円減、△27.5%)に対し、総費用65,839千円(対前期比△27,834千円減、△29.7%)で、差引158千円の経常利益となっている。しかし、今期に限った経営改善等に伴う特別損失3,243千円が発生したことから、当期損失は3,293千円と、前期と比較すると478千円悪化している。

## (2) 貸借対照表

## ア 貸借対照表比較表 (資産の部)

(単位：千円)

区 分	第27期	第26期	第25期
	(H30.9.30現在)	(H29.9.30現在)	(H28.9.30現在)
流動資産	26,793	16,488	23,974
現金・預金	24,921	13,514	18,078
売掛金	736	916	2,406
棚卸資産	839	1,875	2,376
前払費用	273	161	182
立替金	-	-	6
仮払金	30	30	946
貸倒引当金	△6	△8	△20
固定資産	5,746	6,732	7,327
有形固定資産	3,599	4,687	4,662
建物	1,684	1,930	2,175
構築物	37	41	44
工具・器具・備品	174	295	592
車両運搬具	0	0	54
一括償却資産	-	-	43
リース資産	1,704	2,421	1,754
無形固定資産	1,064	1,490	1,915
ソフトウェア	1,064	1,490	1,915
投資その他資産	1,083	556	750
出資金	13	13	13
長期前払費用	1,070	543	737
資産合計	32,539	23,220	31,301

※ 第27期末有形固定資産の減価償却累計額 20,025千円

※ 第26期末有形固定資産の減価償却累計額 21,149千円

※ 第25期末有形固定資産の減価償却累計額 20,295千円

## 〔資産の部〕

第27期の資産総額は32,539千円で、前期と比較すると9,319千円、40.1%増加している。これは主として現金及び預金の増加に伴うものである。

流動資産総額は26,793千円で、主なものは現金及び預金24,921千円、売掛金736千円、棚卸資産839千円である。流動資産総額を前期と比較すると、10,305千円、62.5%増加している。

固定資産総額は5,746千円で、主なものは有形固定資産の建物1,684千円、リース資産1,704千円である。固定資産総額を前期と比較すると986千円、14.6%減少している。



## イ 貸借対照表比較表 (負債及び純資産の部)

(単位:千円)

区 分	第27期	第26期	第25期
	(H30.9.30現在)	(H29.9.30現在)	(H28.9.30現在)
負債の部			
流動負債	20,314	16,813	16,180
買掛金	229	1,221	1,401
短期借入金	8,000	-	-
1年以内返済長期借入金	5,842	5,899	6,120
未払金	3,470	5,381	5,362
リース未払金	1,704	2,421	1,755
未払法人税等	211	211	211
未払消費税等	793	1,518	1,033
預り金	65	162	298
固定負債	38,344	29,232	35,131
長期借入金	38,344	29,232	35,131
負債合計	58,658	46,045	51,311
純資産の部			
株主資本	△26,118	△22,824	△20,009
資本金	25,000	25,000	25,000
利益剰余金	△51,118	△47,824	△45,009
利益準備金	800	800	800
繰越利益剰余金	△51,918	△48,624	△45,809
純資産合計	△26,118	△22,824	△20,009
負債及び純資産合計	32,539	23,220	31,301

## 〔負債の部〕

第27期の負債総額は58,658千円で、前期と比較すると12,613千円、27.4%増加している。これは主として短期借入金が皆増したことによるものである。

流動負債総額は20,314千円で、主なものは短期借入金8,000千円、1年以内返済長期借入金5,842千円である。固定負債総額は38,344千円で、長期借入金である。

## 〔純資産の部〕

第27期の純資産の合計額は26,118千円の赤字で、前期と比較すると3,294千円悪化している。これは、特別損失3,243千円が発生したことによるものである。

第27期の資本金は25,000千円で、前期と同額である。

第27期の利益剰余金は51,118千円の赤字で、前期と比較すると3,294千円悪化している。

### 3 営業成績及び財産状況の推移

#### (1) 部門別売上高の推移

(単位：千円)

区 分	第27期	第26期	第25期
	(H29.10.1～H30.9.30)	(H28.10.1～H29.9.30)	(H27.10.1～H28.9.30)
レストラン	11,134	36,240	37,252
温泉	19,142	19,945	20,667
特産品店	9,794	11,030	12,074
業務受託	9,189	9,047	9,428
駐車場	9,491	9,215	10,561
ジオカヌー	5,574	3,604	5,495
その他	1,672	1,553	4,043
合 計	65,996	90,634	99,520

※ その他収入は、自動販売機手数料、温泉配湯業務手数料、補助金などである。

#### (2) 営業成績及び財産状況等の推移

(単位：千円)

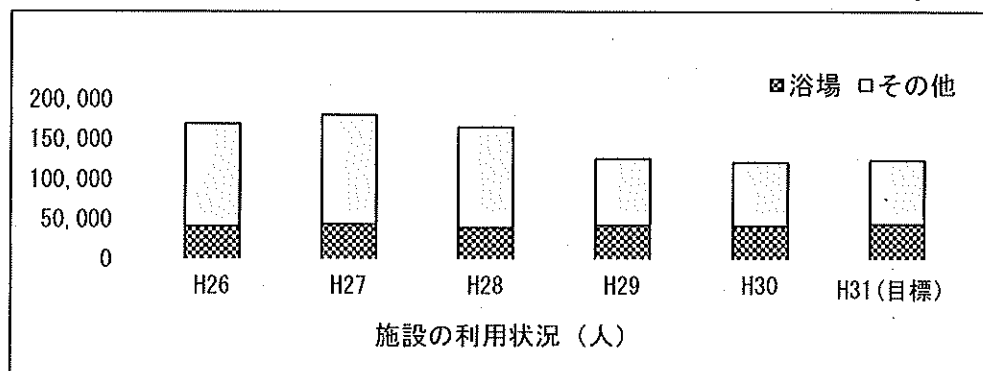
区 分	第27期	第26期	第25期
	(H30.9.30現在)	(H29.9.30現在)	(H28.9.30現在)
売上高	65,996	90,634	99,520
経常利益	158	△2,616	4,178
当期利益	△3,293	△2,815	4,005
1株当り当期利益	△6,587円	△5,630円	8,010円
総資産	32,539	23,220	31,301
純資産	△26,118	△22,824	△20,009

#### (3) 施設の利用状況(指定管理者事業報告書より)

(単位：人)

年度 項目	H26	H27	H28	H29	H30	H31(目標)
浴場	41,989	44,475	40,029	43,200	42,551	45,000
その他	128,066	136,785	125,329	83,400	79,649	80,000
計	170,055	181,260	165,358	126,600	122,200	125,000

※ その他は、竹野北前館入場者数(総利用件数)から浴場利用者数を差引した人数である。研修・交流ホール、海洋学習室等個々の利用者数は把握していない。



#### 4 主な取組状況（第28期事業計画より）

- (1) 前期では懸案であったレストラン事業の外部委託を決断し、平成30年3月下旬から委託事業者の募集を行い、「布袋クリエイティブ合同会社」に決定した。海辺のカフェレストラン「プティパ・ダイニング&リゾート」としてオープンしている。
- (2) 温泉部門では、「竹野絶景温泉」というコンセプトのもと、利用者が雄大な日本海を眺めながら落ち着いて入浴することができる施設としてPRに努めている。
- (3) 時間帯による入浴者数動向を踏まえ、利用者の少ない時期には、入浴開始時間を変更することを検討するなどして光熱水費の経費削減を図っている。また、レストラン事業受託者と連携をとり収益の改善を図ることとしている。
- (4) 特産品部門では、市内や但馬漁業協同組合などで製造された商品を前面に出すとともに、売れ筋商品を順位付けして人気商品をPRし、売上増に繋げることとしている。また、地元野菜の販売も行っている。
- (5) ジオカヌーの需要増に対しては、インストラクターを充実して対応するとともに、料金体系の見直しを行い、収益の改善を図ることとしている。
- (6) 受託事業として「かぜまちミュージアム」の管理運営を行っているが、ジオパークの中核施設として、市内小中学校のジオ学習の場としての機能を発揮することとしている。
- (7) 竹野北前館が地域の方々の理解と協力のもと地域の核となる施設となるよう運営している。



（「竹野北前館」外観）



（たけのナビステーション）

#### 5 監査の総括及び所見

##### (1) はじめに

北前館は、竹野北前館の管理運営を主体に、竹野地域の観光振興・産業振興を図り、地域の活性化に貢献することをめざして、旧竹野町が51%を出資し、残りを旧竹野町の町民、企業、団体などから募集し、平成3年10月に第3セクターとして設立された。

##### (2) 経営状況について

経営状況は、長年債務超過状況が続き、第27期（平成30年9月30日）決算では26,118千円の債務超過になっている。平成18年度には、経営診断等を行い、今後の経営のあり方について一定の方向や考え方が示され、会計経理、企画経営、人事管理などの各分野について健全化への取り組みが進められてきた。平成28年11月には、「豊岡市第三セクターのあり方指針」が示され、積極的に運営の改善を促されてきた。平成31年1月には、「豊岡市

(竹野北前館) 第三セクター等経営健全化方針」が策定された。

特に経営状況の悪化に対して大きな影響を与えているレストラン部門について、平成30年3月末で休業し、外部委託を行っている。第28期(令和元年9月30日)決算については、売上は減収となるが、レストラン部門の人件費等の経費節減により黒字を確保できる見込みとなっている。今後レストラン部門の外部委託に伴い、経営状況は好転することが見込まれており、令和5(2023)年度には、債務超過がなくなる予定である。

(3) 大規模改修事業等について

平成28年4月に山陰海岸ジオパーク竹野エリアを総合的に紹介・案内できる施設として、竹野北前館を「竹野北前館ジオエリア拠点施設」として改修しオープンした。総事業費は、147,574千円で、主な事業内容は、①竹野インフォメーションセンターの整備、②直径5メートルのホワイト地形模型を配置し、竹野ジオサイトをプロジェクションマッピングで紹介する機能の整備、③竹野ジオサイトを70インチモニターの映像で紹介する機能の整備と北前船資料展示のリニューアルなどである。施設のリニューアル効果により来館者の増加がみられていた。施設のLED化、電力供給会社の変更などによる経費節減効果はでてきているが限界があり、一方、消費税増税などを始めとするコスト増加要因もあり、一層の経費節減は厳しいと見込まれる。

(4) 指定管理施設について

「豊岡市公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例」、「指定管理者制度に関する運用指針」等に基づき、施設と基本協定及び年度協定が適切に締結され、開館時間を変更する場合は市の施設所管課と協議・調整を行っている。また、利用料金についても適切に処理され、経理についても部門毎に区分されている。

(5) 総括

毎月開催される取締役会において月次の経営状況を把握するなど取締役の経営意識が高い。職員もモチベーションが高く、今後も設立目的を念頭に置き、引き続き様々な取り組みを進めていくことを要望する。

北前館は、第三セクターとして誕生したが、当時の地域やコミュニティの活性化を図る視点と比較し、現在の社会情勢は大きく変化している。しかしながら、今後においても、原点である地元地域の方々との連携を図ることに何よりも配慮願いたい。

〔指導事項〕

「豊岡市立竹野北前館の設置及び管理に関する条例施行規則」に基づく北前館使用許可書の交付が行われていなかった。規則に基づく適正な事務処理に努められたい。

〔注意事項〕

ア 定款に基づく取締役会の議事録が作成されていなかった。会議の経過及び結果等について、法令で定めるところにより記載等されたものを作成し保管されたい。

イ 「食品衛生に関する基準及び営業の手続等を定める規則」に基づく営業許可証の掲示は、施設の見やすい場所に掲げられたい。

〔要望事項〕

今後も利用者・来訪者の安定的確保と増加を図り、入浴客の回復兆しが見られる温泉浴場の経営安定化、山陰海岸ジオパーク関連によるジオガイド及びジオカヌーなどの充実による収益源の確保により、安定して利益を維持確保することが求められる。

竹野エリアにおける活性化をめざして設立された趣旨を関係者が意識して、地域に貢献する第3セクターとして存続するよう経営に取り組まれることを期待する。



(株式会社北前館による説明)